

平成28年度災害廃棄物処理計画策定モデル事業(埼玉県所沢市)

- 災害廃棄物の発生量や処理方法、協定内容等の基礎情報を整理
- 近隣市(飯能市、狭山市、入間市)との災害廃棄物処理に係る協力・連携体制のあり方を検討
- モデル事業の成果を活用し、次年度以降、災害廃棄物処理計画の策定を進めるとともに、近隣市に対しても処理計画の策定を働きかけていく予定

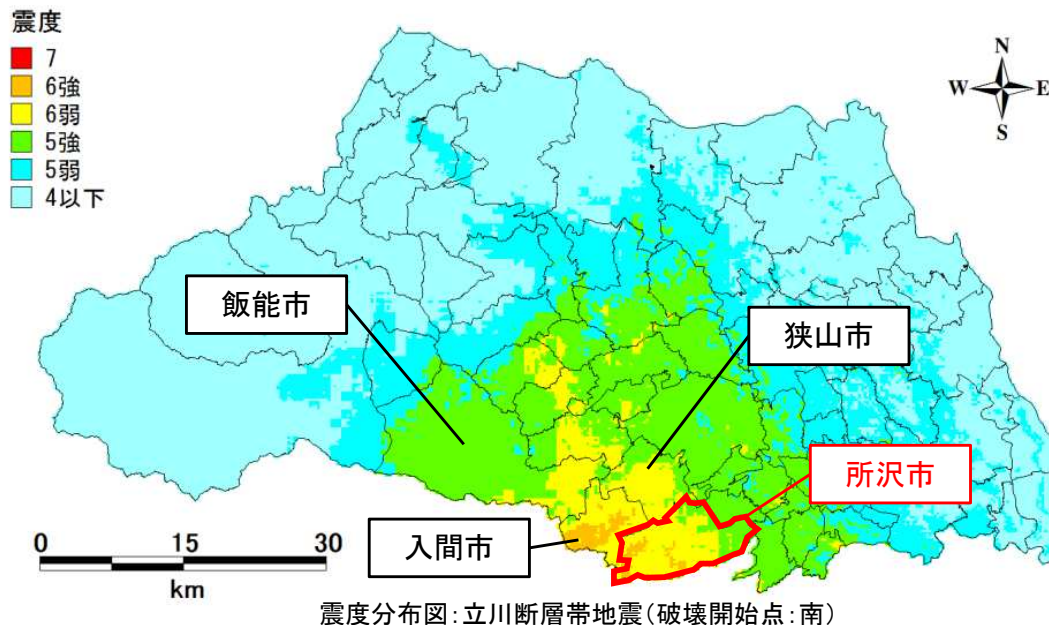
本地域の課題

- 同市は住宅密集地であり、仮置場の選定が難しい
- 市域内の処理だけでなく、協力体制の確立といった観点から、近隣市(飯能市、狭山市、入間市)との災害廃棄物処理の協力・連携体制の構築が必要

被害想定

- 想定災害:立川断層帯地震
- 所沢市の震度:5強~6強
- 災害廃棄物発生量:約27万トン

(出典:平成24・25年度埼玉県地震被害想定調査報告書)



モデル事業の概要

1. 4市の災害廃棄物発生量及び処理可能量(焼却・処分)の算定、処理フロー及び留意点の整理
 - 4市の発生量及び処理可能量を比較して充足状況を確認
 - 焼却・処分については平常時の処理先を踏まえた処理フローを作成
 - 発災時における懸念事項等を留意点として処理工程別(収集運搬、仮置き、再生利用、焼却、最終処分)に整理し、近隣市との協力・連携体制を構築する必要性を検討
2. 仮置場の必要面積の算定、仮置場の配置計画の検討、利用可能性に係る検証
 - 仮置場の必要面積を算定し、候補地の面積と比較して充足状況を確認。図面上に候補地をプロットし、配置計画を検討
 - 候補地が使えるかどうか、実際に現場確認を行い、作成したチェックシートで利用可能性を検証
3. 災害時における協定等の整理
 - 近隣市との協力・連携体制を検討するにあたり、現在締結している災害支援協定の内容を整理
4. 近隣市との協力・連携体制の構築に向けた意見交換会の開催
 - 上記1~3の検討結果を踏まえ、協力・連携体制を構築する必要性や協力・連携体制のあり方を整理
 - 意見聴取事項を整理し、近隣市・関係行政機関との意見交換会を開催

本モデル事業の主な内容

○候補地の現場確認等による利用可能性の検証

現場での確認事項を整理したシート(右表)を作成し、候補地の利用可能性の検証を実施

- ➡**仮置き場候補地の現地調査**は、実行性のある配置計画の検討に資する
- ➡他自治体における候補地検討に参考になる



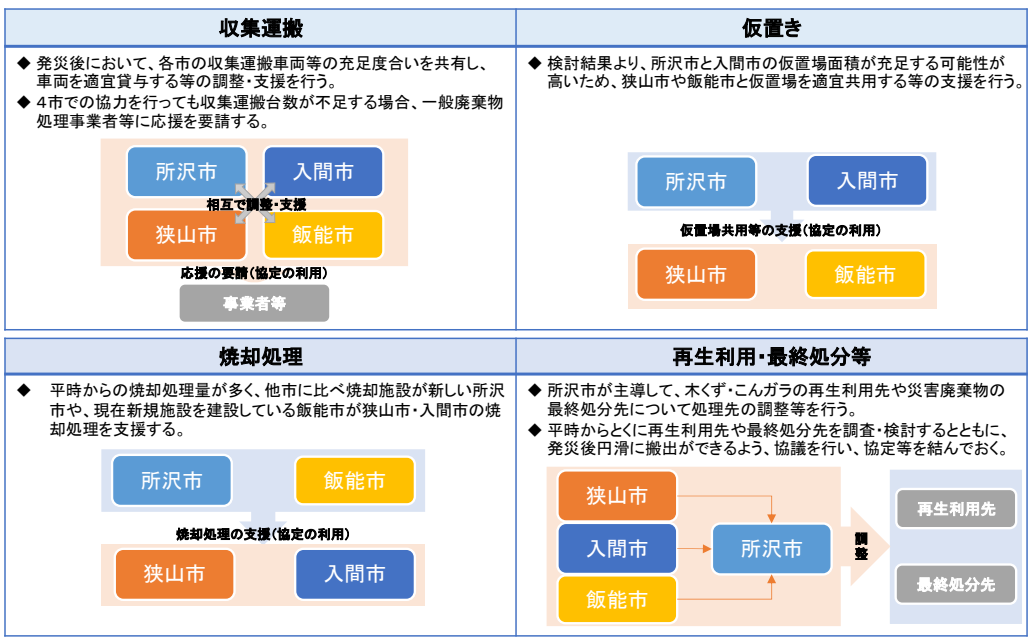
仮置き場候補地の現地調査

仮置き場候補地の現地確認事項

No	項目	庁内(事前調査)		現地(現場状況)		判定方法等(事前調査)	判定方法等(現地調査)	現場確認の必要性
1	管理面積 / 使用可能面積割合	m2		約	%	市所管データ等から判別	・航空写真により、候補地に占める使用可能面積割合を検討(調査では該当しそうな場所に当たりをつける) ・小規模かつ矩形の土地である場合、測量器具を用いて使用可能面積を計測後、面積割合を算出	○
2	所管	国	県	庁内	—			
3	管轄詳細名称					市所管データ等から判別 (現地調査で異なる使用がされていれば記載)	・オープンスペース→所沢市の公園データにおける仮置場条件抽出方法と同様に一次仮置場、二次仮置場の可能性を検証	○
4	空地の制約条件 ※法的な規制等	有	無	—				
5	空地の調整状況(庁内) (協力業者) (周辺住民)	未 未 未	済 済 済	未 未	済 済	市所管データ等から判別 (現地調査で異なる使用がされていれば記載)	・オープンスペース→所沢市の公園データにおける仮置場条件抽出方法と同様に一次仮置場、二次仮置場の可能性を検証	○
6	多用途での利用の可能性	有	無	—				
7	使用用途(現状)			—		市所管データ等から判別 (現地調査で異なる使用がされていれば記載)	・オープンスペース→所沢市の公園データにおける仮置場条件抽出方法と同様に一次仮置場、二次仮置場の可能性を検証	○
8	使用用途(震災時)	一次	二次	一次	二次			
9	仮置きする廃棄物種別 ※事前設置の場合、搬入を予定するものは可能な廃棄物を記載。 ※現地在置置の場合、搬入可能と考えられる廃棄物をチェック	チェック	項目内容	チェック	項目内容	他の調査項目をもとに各自照付付け。		△
10	舗装の整備状況	未	済	未	済	舗装状況を確認		○
11	空地状況及び周辺状況	チェック	項目内容	チェック	項目内容	地図上で確認	地図上で確認できない民家があるか周回して確認 接道からの敷地入り口について幅を計測(屋根等がないかも)	○ ○
		<input type="checkbox"/> 周辺民家(100m以内)		<input type="checkbox"/> 周辺民家(100m以内)		-搬入ルートについて造成等により早期に確保できるか確認 -幅員5.5m道路に到達するまでの搬入ルートの状態を記録→ダンブ等の入退場ができるか確認	傾きがなく平坦であるか目視により確認(勾配を計測する)	○ ○
		<input type="checkbox"/> 搬入ルート(5.5m以上)		<input type="checkbox"/> 搬入ルート(5.5m以上)				
		<input type="checkbox"/> 搬入ルートの確保		<input type="checkbox"/> 搬入ルートの確保		洪水・土砂災害警戒区域から判別	液状化マップから判別	○
		<input type="checkbox"/> 土地形状		<input type="checkbox"/> 土地形状				
		<input type="checkbox"/> 水・土砂災害の可能性		<input type="checkbox"/> 水・土砂災害の可能性				
		<input type="checkbox"/> 液状化の可能性		<input type="checkbox"/> 液状化の可能性				

○近隣市との協力・連携体制の構築

- 4市分の基礎情報(災害廃棄物発生量・処理可能量・仮置場の必要面積など)の整理や処理フローを作成
 - ➡基礎情報から4市の強みや弱みを整理
 - ➡各自治体の弱みを補完しあう相互の協力・連携体制のあり方を検討
- 4市による意見交換会にて、入間市から、台風に伴う水害による災害廃棄物処理の対応や課題等について発言いただいた
 - ➡近隣市の苦労話により、**自地域も被災する可能性を認識**
 - ➡**災害廃棄物対策の必要性を再確認**
- 協力・連携体制の確立にあたり、平常時の廃棄物処理の既存の枠組み(ダイヤプラン)や災害支援協定をベースとした**相互支援の精神からアプローチ**
 - ➡**納得感や一体感の醸成につながった**



所沢市を含む4市の協力・連携体制